

復習シート ハイレベル生物① 9回目

第49問 原核細胞の遺伝子発現調節(その1) 1学期

問 ラクトースオペロンを説明した図を参考にしながら、文章中の空欄(ア～ク)に適する語句を入れよ。

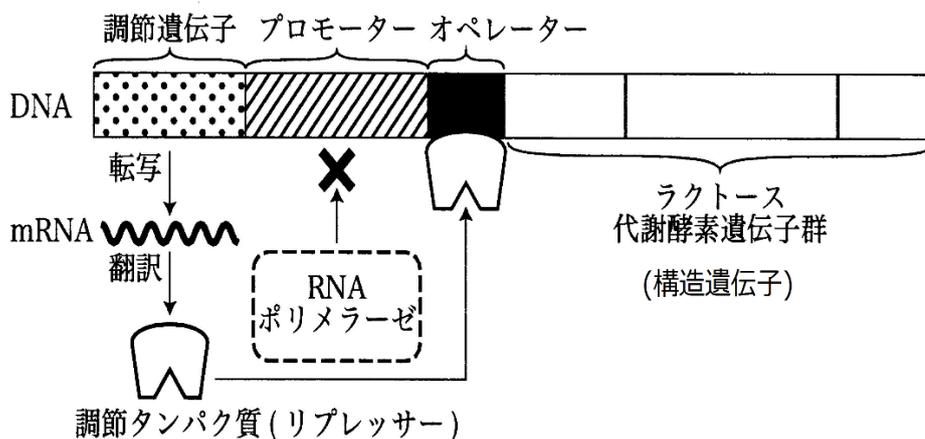
大腸菌はラクトースを取り込むと、これをラクターゼ(ラクトース代謝酵素群)でガラクトースとグルコースに分解して、これらの物質を呼吸基質などさまざまな生命活動に用いている。ここに、ラクトースを取り込んだときにだけラクターゼを合成するようなシステムが存在し、ラクトースオペロンと呼ばれている。

ラクトースオペロン

- (ア) : ラクターゼ(ラクトース代謝酵素群)の遺伝子。
- (イ) : (ア)を転写するRNAポリメラーゼが結合する部分。
- (ウ) : 調節タンパク質(=エ)が結合する部分。
- (オ) : 調節タンパク質(=エ)の遺伝子。

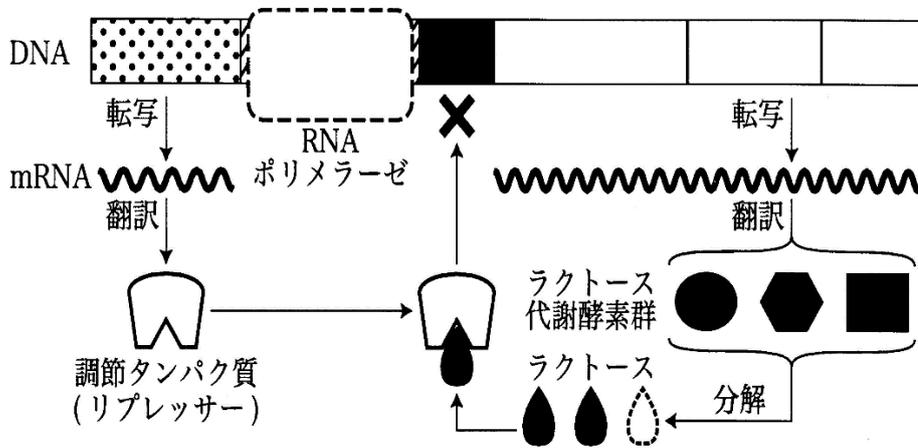
大腸菌がラクトースを摂取していないとき

ラクトースを摂取していないときは、ラクトース代謝酵素遺伝子群が発現しないようにしなければならない。そこで(イ)にRNAポリメラーゼが結合しないように(ウ)に(エ)が結合する。これによってラクトース代謝酵素遺伝子群が転写されることはなくなる。



大腸菌がラクトースを摂取したとき

ラクトースを摂取したときとは、その摂取したラクトースの一部が(カ)に結合する。すると(カ)は不活性型になり、(キ)に結合できなくなる。するとRNAポリメラーゼが(ク)に結合できるようになるのでラクトース代謝酵素遺伝子群が発現する。



【解答】第49問 原核細胞の遺伝子発現調節(その1)

ア - 構造遺伝子 イ - プロモーター ウ - オペレーター
エ - リプレッサー オ - 調節遺伝子 カ - リプレッサー
キ - オペレーター ク - プロモーター

第50問 原核細胞の遺伝子発現調節(その2)

問 トリプトファンオペロンを説明した図を参考にしながら、文章中の空欄(ア〜ク)に適する語句を入れよ。

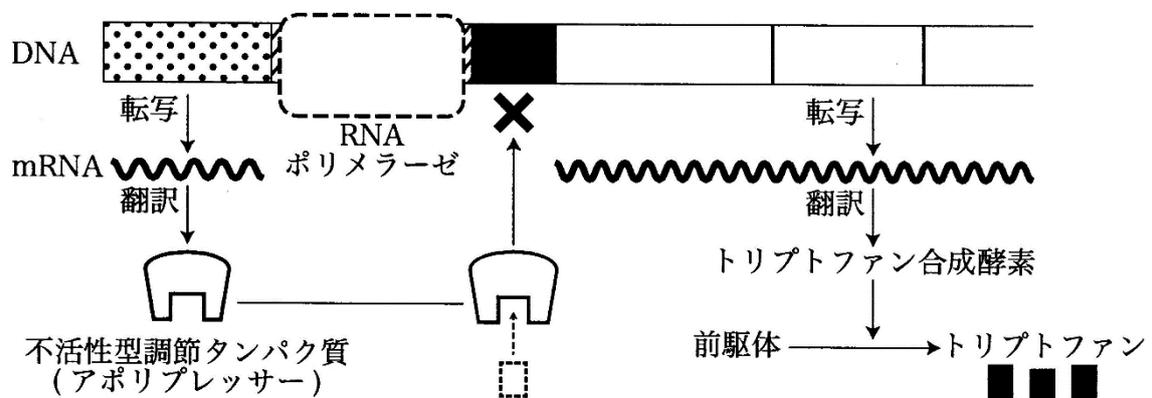
大腸菌はアミノ酸の一種トリプトファンを合成することができるが、このときトリプトファン合成酵素が必要となる。ここに、トリプトファンが不足したときだけトリプトファン合成酵素を作り出すようなシステムが存在し、トリプトファンオペロンと呼ばれている。

トリプトファンオペロン

- (ア)：トリプトファン合成酵素の遺伝子。
- (イ)：(ア)を転写するRNAポリメラーゼが結合する部分。
- (ウ)：調節タンパク質(=エ)が結合する部分。
- (オ)：調節タンパク質(=エ)の遺伝子。

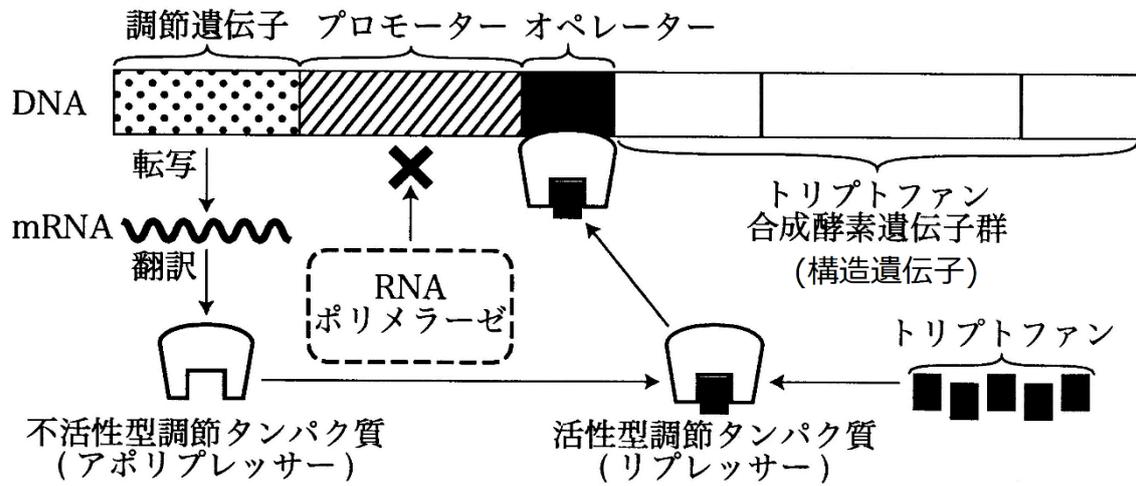
トリプトファンが不足しているとき

(オ)が転写されてmRNAができ、そのmRNAが翻訳されて調節タンパク質(=エ)ができるが、この(エ)はそのままでは不活性で(ウ)に結合することができない。すると(イ)にRNAポリメラーゼが結合してか(ア)が転写され、できたmRNAが翻訳されてトリプトファン合成酵素が作られる。



トリプトファンが過剰なとき

過剰なトリプトファンの一部が(オ)に結合すると、この(オ)が活性化して(カ)に結合する。するとRNAポリメラーゼが(キ)に結合できなくなり、(ク)が発現しなくなる。つまりトリプトファン合成酵素が作られなくなる。



【解答】第50問 原核細胞の遺伝子発現調節(その2)

ア - 構造遺伝子 イ - プロモーター ウ - オペレーター

エ - リプレッサー オ - リプレッサー(図中ではアポリプレッサー)

カ - オペレーター キ - プロモーター ク - 構造遺伝子

第51問 真核の遺伝子発現調節 1学期

問 真核細胞の発現調節に関する次の文章中の空欄(ア～オ)に適する語句を入れよ。

真核細胞の場合、RNAポリメラーゼ (ア) がプロモーターに結合するには(イ)と結合した(イ)になる必要がある(図1)。さらにプロモーターの上流側の(エ)に(カ)が結合して初めてRNAポリメラーゼはプロモーターに結合することができる(図2)。さらに(ウ)に結合した(オ)が(イ)に作用することによって転写が可能となる(図3)。

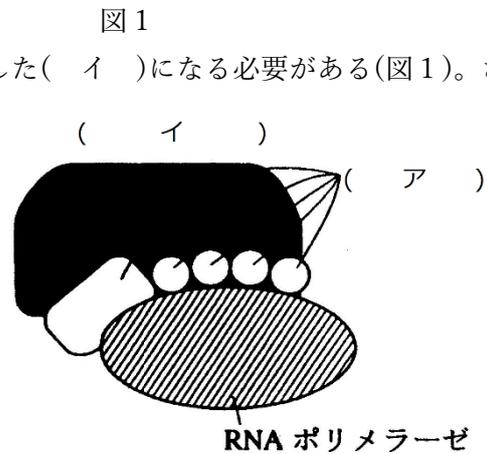


図2

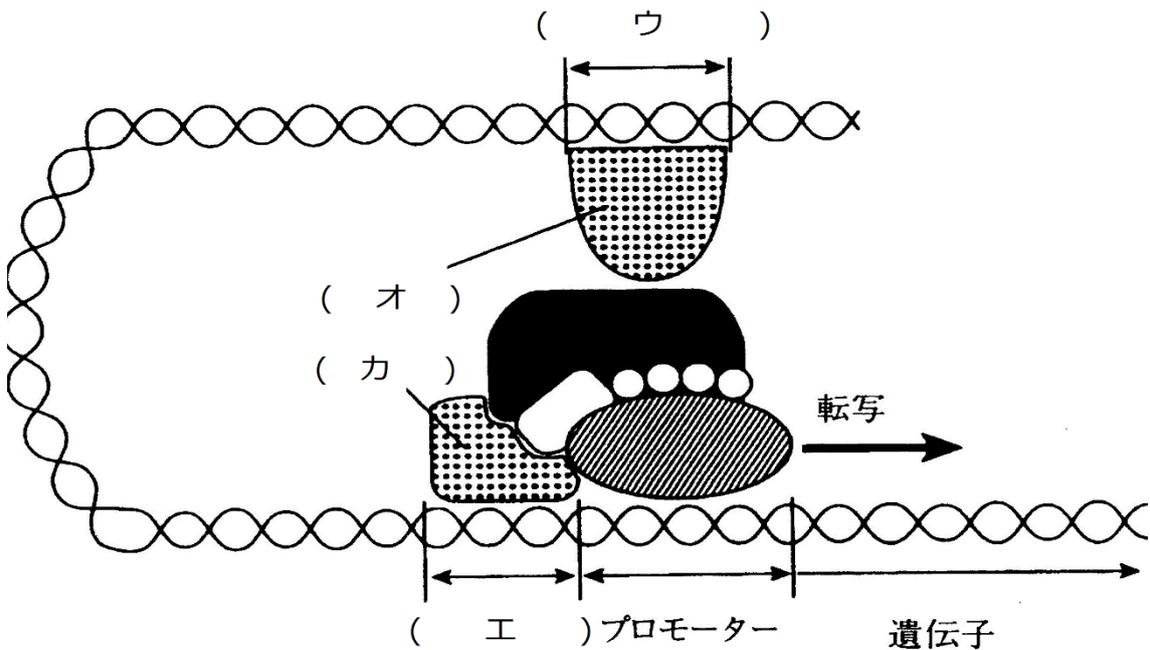
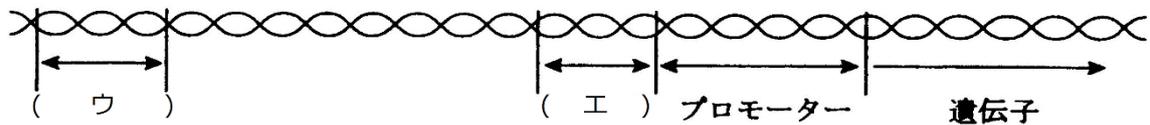


図3

【解答】第51問 真核の遺伝子発現調節 1学期

ア - 転写調節因子 イ - 転写複合体 ウ - 転写調節領域(=調節領域)
エ - 転写調節領域(=調節領域) オ - 調節タンパク質(=転写調節因子)
カ - 調節タンパク質(=転写調節因子)

第52問 転写後の調節 1学期

問 次の文章中の空欄(ア～オ)に適する語句を入れよ。

核内の遺伝子(遺伝子Xとする)が転写され、mRNA(「mRNA-X」と呼ぶことにする)ができるとき、何らかの原因で、そのmRNA-Xが(ア)化することがある。このようなmRNAは、ダイサーと呼ばれるRNA分解酵素によって切断され、短い1本鎖RNAとなる。これに、あるタンパク質が結合すると、RISC(RNA誘導サイレンシング複合体)と呼ばれる構造となる。RISCは、mRNA-Xと(イ)な部分で結合し、そのmRNA-Xを分解してしまう。つまり、mRNAの(ア)化が起こると、そのmRNAのもとになった遺伝子の発現が(ウ)されるのである。このような現象を(エ)という。(エ)を人工的に誘導すれば、特定の遺伝子の発現を(ウ)することができる。すなわち、遺伝子Yが転写されてできるmRNAと相的なRNAを作り、これを細胞に注入してやる。すると、YのmRNAと、その注入したRNAが(イ)に結合し、(ア)RNAとなる。すると、(エ)が起こり、遺伝子Yの発現が(ウ)されるのである。この技術によって、例えば、特定の遺伝子の発現を(ウ)することで、その遺伝子のはたらきを推測することができる。また、がんなど、有害遺伝子による病気を抑制できる。また、(オ)の翅の形成を阻害すれば、生物農薬として使える。テントウムシはそのままと飛んで行ってしまうが、翅をなくせば、ずっとその植物についていてくれるというわけである。

【解答】第52問 転写後の調節 1学期

ア-2本鎖 イ-相補的 ウ-抑制 エ-RNA干渉 オ-テントウムシ

第53問 遺伝子の移動 1学期

問1 遺伝子の移動に関する次の文章中の空欄(ア・イ)に適する語句を入れよ。

遺伝子は生殖によって移動する場合と、(ア)によって移動する場合がある。この場合、細胞から細胞へ直接移動する場合と、(イ)によって運ばれる場合がある。

問2 問1の文章中の(イ)にはどのようなものがあるか。2つ答えよ。

【解答】第53問 遺伝子の移動 1学期

問1

ア - 形質転換 イ - ベクター

問2

ウイルス・プラスミド

第54問 プラスミドがベクターとなった形質転換(遺伝子組み換え) 1学期

問1 プラスミドを説明した次の文章中の空欄(ア・イ)に適する語句を入れよ。

細菌が、自身のゲノムDNAとは別に持っている(ア)の小さなDNAをプラスミドという。プラスミドには、プラスミド自身が(イ)するのに必要な遺伝子くらいしか存在しないが、例えばpBR322というプラスミドにはそれを持っている細菌に対してテトラサイクリン抵抗性やアンピシリン抵抗性を持たせる遺伝子が存在する。

問2 問1の下線部に関する以下の各設問に答えよ。

設問(1) テトラサイクリンやアンピシリンを(ウ)という。(ウ)に入る語句を答えよ。

設問(2) 設問(1)の(ウ)にはテトラサイクリンやアンピシリン以外にどのようなものがあるか。

設問(3) 結局(ウ)はどのような作用を持っているのか答えよ。

問3 大腸菌にヒトのタンパク質を合成させる手順を説明した次の文章中の空欄(エ・オ)に適する語句を入れよ。

作らせたいタンパク質の遺伝子とプラスミドを用意して、プラスミドを(エ)で一か所切る。切ったところに作らせたいタンパク質の遺伝子を(オ)で結合させる。この組み換えプラスミドを大腸菌に送り込めば、その大腸菌内では送り込んだ遺伝子が発現してタンパク質を合成する。

問4 遺伝子組み換え技術に関する次の文章中の空欄(カ〜ク)に適する語句を入れよ。

1つの細胞に外部から新しい遺伝子を組み込む場合は(カ)というが、1個体の細胞すべてに外部から新しい遺伝子を組み込んだ場合は、そのような生物を(キ)生物という。なお(キ)生物を作成するには、例えば(ク)を(カ)してその(ク)を発生させればよい。

【解答】第54問 プラスミドがベクターとなった形質転換(遺伝子組み換え) 1学期

問1

ア - 環状 イ - 増殖

問2

設問(1)

ウ - 抗生物質

設問(2)

ペニシリン・メチシリン・バンコマイシン・ストレプトマイシンなど

設問(3)

殺菌物質

問3

エ - 制限酵素 オ - DNAリガーゼ

問4

カ - 形質転換 キ - トランスジェニック ク - 受精卵